「しかし」と「そして」
―言いかえられる場合、言いかえられない場合―

“Shikashi” and “Soshite”: When are they interchangeable, and when are they not?

三枝　令子

要旨

接続詞の中で「しかし」と「そして」は、それぞれ逆接、順接に分類され、接続詞の中でも基本的、代表的なものと言える。本稿では、「そして」と「しかし」が互いに言いかえられる時、言いかえられない時があることから、それぞれの場合を考え、その働きをみてみた。発話のプロセスに沿って考えると、「そして」は、後に続くことがらが最後であることを示し、「しかし」は、後件にそれまでの流れとは異なることがらが来る先触れと言える。接続詞の「そして」「しかし」を順接、逆接と分けるのが一般的だが、その違いは実は大きくはない。

キーワード：しかし　そして　逆接　順接

１　はじめに

数ある接続詞の中で「しかし」と「そして」は、それぞれ逆接、順接に分類され、接続詞の中でも基本的、代表的なものと言える。しかし、この両者は、次の例のように、同一文脈でいいかえることができる。

(1)　＜節の冒頭＞もちろん、これはアメリカに限ったことではない。日本でもいよいよ貧困層の拡大が目立っている。日本という国家を支えてきた健全な庶民層、健全な中間層が貧困層に組み入れられるようになってきた。{しかし・そして}、これはとりわけ日本という国にとっては重大な事態だと考えざるをえない。なぜか。（資本）

(2)　会話は意味を持ったことばをやりとりする、キャッチボールのようなものではない、それは意味と＜なる＞のである。{そして・しかし} 悲しいことに、ことばは意味と＜ならない＞こともある。（ハングル）

ここで使われている「しかし」「そして」のうち、左側の下線を付したものが元の文だが、互いに言いかえても不自然ではない。表現意図、意味するところに違いはあっても、無理なく言いかえられる。順接、逆接という異なる働きを持つ二つの接続詞の、こうした言いかえは、どういう場合に可能なのか、一方、「しかし」「そして」が単独でしか使えないの

はどういう場合か、小稿ではこうした観点から「しかし」「そして」[1]の意味・機能を考えてみたい。

２「しかし」「そして」についてのこれまでの分析

「しかし」「そして」については、これまでにその用法の分類、分析が多くなされている。ここでは、その中から本論に関係するものを中心にとりあげる。

2.1 「しかし」

佐竹（1986）は、「しかし類」の接続詞は、前件に関する何かを否定するものとして後件をとらえた時に用いられる、と考える。そして、「そして類」の肯定系接続詞と対応させて、「しかし」類を大きく以下の右の列のように分類した。

肯定系接続詞	否定系接続詞
並列関係	対比関係
継起関係	否定的継起関係
累加関係	否定的累加関係
順接関係	逆接関係

たとえば、はじめの行の並列関係、対比関係、次の行の継起関係、否定的継起関係では次のような例が示されている。

(3) a 問題 A は難しい。ソシテ、問題 B はやさしい。（並列関係）
　　b 問題 A は難しい。シカシ、問題 B はやさしい。（対比関係）
(4) a 花子は転んだ。ソシテ/ト、すぐ起き上がった。（継起関係）
　　b 花子は転んだ。シカシ、すぐ起き上がった。（否定的継起関係）（佐竹 167）

佐竹の分類は、接続詞を「肯定系」「否定系」とに分け、それぞれを対応させている点が注目される。「しかし」の用法をどのように分類するかは人によって異なる。たとえば、岩澤（1985）は、逆接の接続詞を「対比」「展開」「転換」「補足」に、渡辺（1995）は「対比」「推論」「感情」に分類し、日本語記述文法研究会（以下、記述研と略す）（2009）は、「しかし」を「対比」と「反予測」とに分ける。本稿で問題にする「そして」と「しかし」の言いかえに関して、岩澤は「展開」用法において、記述研では「対比」の用法において言いかえが可能だとしている。岩澤のあげている「展開」用法の例とは、以下の例である。

[1] 順接、逆接の接続詞には「そして」「しかし」のほかにさまざまなものがあり、それらは文体、位相差などによる使い分けがあるが、ここでは「そして」「しかし」に議論を限定する。

(5)　マスコミの利用も、なかなかみごとである。主婦連の存在を一躍有名にしたのは、一九五一年の例のオシャモジであったが、テレビなどまだない当時、新聞の白黒写真にうつるには、白いかっぽう着に白い大シャモジは、格好のスタイルであった。―中略―、その演出効果を知るや、ただちにシンボル化する才覚は、やはり敬服に値する。

　しかし、何よりも感心するのは、大衆意識をつかむ問題設定のうまさである。初期のヤミ退治から不当表示問題まで、そこに一貫して流れているのは、ウソつき、ごまかしに対する過敏さである。（岩澤 42）

記述研があげる「対比」の例とは、以下の(6) a のようなものである。

(6)　a　サツマイモは根である。しかし、ジャガイモは茎である。
　　b　サツマイモは根である。そして、ジャガイモは茎である。（記述研 79）

岩澤のあげる例(5)では、文脈が与えられているので、「しかし」を「そして」に言いかえられることが明らかだが、記述研の例(6)に、たとえば「ジャガイモは根ですよね」という質問文を先行させれば、a は自然だが、b は不自然である。「しかし」の分析において、「そして」との言いかえ可能性にふれている論考は多いが、どのレベルで言いかえられると考えるかは、論者によってかなり異なる。小稿で取り上げるのは、文章の流れの中でどちらも成立する場合である。

2.2　「そして」

「そして」に関しては、その使用条件を規定するのはむずかしい。森山（2006）は、「そして」に「同類異項目性」が必要であることを指摘しており、この分析は「そして」の使用条件として有効と思われる。森山には、「そして」が使えない例として、以下の例が示されている。

(7)　彼女は 20 歳で子どもが生まれた。彼女は 20 歳で親になった。（森山 190）
(8)　コーヒー豆がなくなった。紅茶もなくなった。そろそろ買いに行こう。（森山 191）

(7)では、前件と後件の文とで、内容的に同じことが繰り返されている、すなわち、異項目ではない。また、(8)においては 1 文目と 2 文目は「異項目」だが「同類」であるのに対して、2 文目と 3 文目は「異類」のため「そして」が使えないと考える。森山では「添加」が「そして」の主要な働きと考えられているが、記述研（2009）では、「そして」を「添加」と「継起」に分類する。石黒（2008）は、「そして」には「最後に一つ、大切な情報

をつけ加える働きがある」ことを指摘している。これまでなされてきた接続詞の用法・意味分類は、すでに発話された文を後から解釈する、いわば結果からの解釈論だが、発話プロセスにおいては、接続詞は次に発話される文の方向を予告するものと考えられ、石黒の発話プロセスにたつ解釈は、接続詞の機能から考えて妥当なものと思われる。

3　「しかし」しか言えない場合、「そして」しか言えない場合

ここでは「そして」「しかし」が言いかえられない場合、すなわち、同一文脈で「そして」しか言えない場合、「しかし」しか言えない場合を考えてみる。これを、たがいに重なりあわないそれぞれの典型的な用法と考える。

3.1　「しかし」しか言えない場合

「しかし」しか言えない場合には、次の二つの場合がある。

①明らかな否定的対比
②間投詞的用法

①明らかな否定的対比というのは、森山の「異種性」に当たると考えられるが、明確にその条件を規定するのはむずかしい。それは、「しかし」の対比性が、社会通念を前提にする場合も多いことによる。次の例のように、前件と後件で、言及の対象が「は」で取り立てられている場合、主語や述語に対比性がある場合、逆接を表す副詞、条件節がある場合というように、言語的に明示されている場合は明らかに「対比」と了解される。

(9)　もちろん、長期的には国債残高が増えすぎるのは問題です。{しかし・*そして}、今のところは問題はおきていません。（経済）
(10)　本来は、為替は国の経済力を表しており、国の経済力が変化しなければ、為替も大きくは変化しないはずです。{しかし・*そして}、現代では国の経済力と無関係の為替取引が増えているので、実態とかけ離れて変動することが多くなりました。（経済）
(11)　1985 年初めは 1 ドル＝250 円という水準でした。1 ドル＝360 円の時代よりは円高になったため、輸出しにくい状態になりました。{しかし・*そして}、それでも当時の日本経済の勢いと比較すると、「円が安すぎた」ため、依然として貿易は「日本有利」だったのです。（経済）

②の間投詞的用法の存在は、多くの先行研究において触れられているもので、以下の様な例を指す。

(12) しかし、暑いね。

(13) 「毎朝、電車が込みますねえ。」「そうですね。しかし、不況でどこも大変ですね。」（接続）

渡辺（1995）は、こうした用法を「話し手の事態に対する受け入れ難さを示す」ものととらえているが、後件には、次の例に見るように、必ずしも否定的な記述が来るとは限らない。

(14) 先　生：ひさしぶりだね、元気かい？
元生徒：はい、元気にしております。しかし、今日こんなところで先生にお目にかかれるとは思いませんでした。

岩澤（1985）は、こうした間投詞的な用法を「転換」と名付けて分類しているが、この用法を特殊なものとして扱っている論考も多い。たとえば、渡辺（1995）は、文を接続するという機能からは逸脱した用法ととらえ、記述研（2009）では「逆接の接続表現としての用法以外」として、感嘆・話題提示用法としている。しかし、もともと「しかし」の逆接性は、社会通念に基づく推論を前提とすることが多く、それは前件に常に言語表現化されるとは限らない。言語表現にとどまらない会話の場がもたらすコンテクストも前提に含まれると考えれば、こうした用法は、むしろ「しかし」の典型的な用法と同種の発話態度をもつ用法とみることができる。また、「しかし」が「そして」に言いかえられないという点でも特徴的である。以下の例のような、言い淀み、質問やオウム返しの用法は「そして」にはない。

(15) 梅津教授が一歩前に出たが、それを下條さんが手を出して制した。彼女はいった。
「あたしが説明します。あたしの責任ですから」
「しかし」
「お願いします」
教授はしばし考えていたが、やがて首を縦に動かした。（分身）

(16) 「しかし」と、鳥飼は口ごもった。「しかし、なんだね？」
「いや、しかしですなあ、係長さん。（点と線）

ここでの「しかし」には、後件がなく、あるのは、次に否定的な内容が来るというサインだけである。先の石黒（2008）の「そして」の記述と同様に、発話プロセスからこの接続詞をみると、「しかし」は、後件にそれまでの流れとは異なることがらが来る先触れと考えられる。「しかし」が来ると、聞き手・読み手は次に何が来るか、身構え、立ち止まらざ

るをえない。ときに、サスペンス性が生まれることもある。こうした働きは「そして」にはない。

3.2　「そして」しか言えない場合

「そして」しか言えない場合として、次の二つの場合があげられる。

①継起
②名詞・名詞句の並立

次のような「継起」の「そして」は、「しかし」に言いかえられない。

(17) 警官は初めてメモから眼をあげた。{そして/*しかし}、このみじめな住居にすばやく視線を走らせて、誰かすぐにゆけるかどうか、とあやぶむように聞いた。（季節）
(18) 新しい技術のおかげで労働が単純化すると、生産能力がシステム的に運営できるようになります。そうすると管理・経営する側は非常にやりやすくなり、規模を拡大することができます。{そして/*しかし}規模を拡大した方が効率的な生産が行え、利益が多くなります。（マルクス）

上の例のように時間的順序関係が明らかな「継起」の用法は、順接にしか解釈されず「しかし」に言いかえられないのが普通である。「そして」の「継起」以外の用法は、広く「添加」に分類できるが、その中の「並列」に「そして」でしか言えない用法がある。

(19) 現時点において、どのような選択肢が日本にとって、{そして/*しかし}中国にとっても最善であるか明らかになっていない。（東アジア）
(20) リーダーには指導力、判断力、{そして/*しかし} 決断力が欠かせない。（文型）
(21) 中国で生まれ、朝鮮やヴェトナム、{そして/*しかし} 日本でも用いられるようになった漢字や、古典中国語である漢文との対峙のしかたについて注目することも、＜文字を創る＞ということを考えるうえでは、得るものが多いであろう。（ハングル）

このように、名詞、名詞句が並立される場合には「しかし」に言い換えられない。石黒（2008）では「そして」を「最後に一つ、大切な情報をつけ加える働きがある」としているが、例(21)を見ると、最後の項目の「大切さ」は、最後であることによって生まれているように思われるので、ここでは「そして」を「あとに続く情報が最後であることを示す」働きがあるとする。

次のように、名詞句ではなく述語が並立される場合には、「そして」は「しかし」に言いかえられる。述語は叙述内容が豊かな分、解釈の可能性が広がり、並列関係は容易に対立関係になりえる。

(22) 外は雨で、古い板葺き屋根を打つ雨の音が、かなり高く、{そして/しかし} 間断なしに聞こえていた。(季節)

(23) ビジネスの目的は「利益を出すこと」です。「剰余価値」を生み出して、利潤を上げなければいけないのです。{そして/しかし}、その「剰余価値」は生産活動の過程でのみ生み出されるのです。(マルクス)

クワイン(1972)によれば、論理学の上では、「しかし」は「そして」によって置き換えることができ、次の 2 文は等しく、対照性を強調する修辞的目的のために「しかし」が使われるという。

(24) a　ジョーンズはここにいる、しかしスミスは病気である。
　　 b　ジョーンズはここにいる、そしてスミスは病気である。(クワイン 23)

「そして」「しかし」の違いは論理学上も大きなものではないということになる。冒頭にあげた例を再掲する。

(1) ＜節の冒頭＞もちろん、これはアメリカに限ったことではない。日本でもいよいよ貧困層の拡大が目立っている。日本という国家を支えてきた健全な庶民層、健全な中間層が貧困層に組み入れられるようになってきた。{しかし・そして}、これはとりわけ日本という国にとっては重大な事態だと考えざるをえない。なぜか。(資本)

(2) 会話は意味を持ったことばをやりとりする、キャッチボールのようなものではない、それは意味と＜なる＞のである。{そして・しかし} 悲しいことに、ことばは意味と＜ならない＞こともある。(ハングル)

例(1)は、一読すると「そして」のほうが自然に思われるが、書き手が「しかし」を選んだのは、貧困層の拡大が日本にとっていかに重大なことかを訴えたいからだろう。前件と後件の関係において、「そして」でも「しかし」でも不自然にならないのは、これらの文章が、「そして」「しかし」それぞれの基本的特徴を持っているからだと言える。すなわち、後件は前件と同種性の関係にあるという「そして」の性質を持ち、同時に、後件は、それまでの論理の飛躍的な帰結、これまでとは異なることを述べるという点で「しかし」の性質も併せ持つ。前件と後件の関係が「継起」や「明らかな対比」の場合、また、「しかし」

の間投詞的用法を除けば、「そして」と「しかし」は言いかえ可能な場合が多い。

「そして」と「しかし」を比べると、否定的、逆接的な意味を示す「しかし」のほうが言う必然性が高く、それに比べて、「そして」は順接関係にある分、使う必然性が低いと考えられる。実際、次の例のように「そして」を省いても論旨を取る上で問題のないことが多い。

(25) 仕事をするうえでは、お客さんに自分の商品を買ってもらわなければいけません。ライバルよりも自分を選んでもらう必要があります。非常に単純で大切なことです。{そして・φ} お客さんに商品を買ってもらい、その代金の一部が自分達の利益となる。これが一番重要です。（経済）

(26) 日本の政治家というのは、概してこういうことを考えていないものとわたしは思っていたわけですが、彼はきちんと考えていました。{そして・φ}、きっちりと自分の考えを述べてくれましたね。（この国）

石黒・阿保・佐川・中村・劉（2009）では、毎日新聞 5 年分の社説、コラム、また、論文、エッセイ、小説、シナリオの大部のデータをもとに、接続詞の頻度を調べている。どのジャンルにおいても逆接の接続表現が一位の使用頻度を占め、また、「しかし」と「そして」の使用頻度については、ジャンルによる違いはあるが、平均して「しかし」が 63%、「そして」が 37%の使用率となっている。馬場（1999）は、接続表現の省略可能性について調査を行い、自身の分析に先立つ二つの調査結果と合わせて、省略可能性を百分率で示している。三つの調査結果の、省略可能性の平均は、「しかし」が 20%、「そして」が 66%と、「そして」のほうが省略されやすい。「そして」の使用頻度が低い理由は、順接ということが大きいと考えられるが、また、あとに続く情報が最後であることを示しながら、何度もそれを繰り返すことで、稚拙な印象を与えるということもあろう。「そして」がない文は、ある文に比べれば文の安定性は損なわれるが、前後の文脈から推論すれば意味がわからなくなるということはほとんどおこらない。そうした「そして」の性格にも関わらず、「そして」が省略しにくい場合がないわけではない。たとえば次のような例がそれに当たる。

(29) 文体（ここでは文芸作品の文体に限定する）に性差は、ある。{そして・*φ}、無い。「ある」というのは、その分野を支配する性が「あるべし」と定めれば、ある。そうでなければ、無い。あるいは、読み手の視線がそれを掬い取れば、ある。そうでなければ、無い。（表現）

(30) 隠喩と直喩は、対象間の類似性認識に基づいて成立する。直喩が「ようだ」「みたいだ」などの比喩の指標がある比喩なのに対して、隠喩は比喩指標がない比喩であ

る。中村（1977a）の「比喩表現の理論と分類」は、500 ほどの比喩指標要素を挙げている。{そして・*φ}、「直喩と隠喩」の境界は、結局「そっくり」「も同然の」「匹敵する」「疑われる」「しのばせる」といった言語形式を比喩の指標として認めるかどうかにかかわっている」と述べている。（表現）

前件と後件の同種性が明らかでない場合、具体的には、前件と後件が通常は同種性と認められない関係にある時（例(29)や冒頭の例(2)）は省けない。また、前件と後件に多くの内容が盛り込まれ、関係がとらえにくい場合（例(30)）にも、「そして」を省くことができなくなる。

５　日本語学習者にとっての問題

日本語の「しかし」は、後件にそれまでの流れとは異なることがらが来る先触れだと考えられ、実際の用例において明らかな逆接関係が見出しがたいことも多い。日本語の原文が、翻訳文でどのように訳されているかをみてみると、逆接以外のことばに訳されている例も少なくない。次の例では、英語には「しかし」に当たる言葉はない。

(31) a　十五番線の人ごみの中を、たしかにお時さんが歩いていた。その他所行きの支度といい、手に持ったトランクといい、その列車に乗る乗客の一人に違いなかった。とみ子もやっとそれを見つけて、「まあ、お時さんが！」と言った。しかし、もっと彼女たちに意外だったことは、そのお時さんが、傍の若い男と親しそうに何か話していることだった。（点と線）＜なくても可、「そして」可＞

b　Tomiko also spotted her at last and cried, ”Why, of course! It’s Otoki!” What surprised them most was that Otoki was talking intimately to the young man who was walking beside her.（Points and Lines）

日本語の「しかし」がカバーする意味の範囲は、かなり広いと考えられ、日本語学習者が使い誤る恐れは少ないだろう。むしろ、母語で使用が多いと考えられる「そして」の使い方のほうに注意が必要と思われる。以下は、上級非母語話者の作文の例である。

(32) ＜論文の結び＞

以上、老化について考察した。これにより、従来の老化モデルはもう通じないことが明らかになった。そして、脳細胞死滅説、健康度の低下は死の直前に直角的に起きるという新しい老化モデルなど、依然として説・モデルであり原因は明らかになっていない。今後の課題は皆が納得できるような老化の原因究明であろう。

(32)では、はじめの一文が結論の骨子である。そのため、「そして」が続くと、さらに重要なことが続くと解釈でき、読み手は混乱する。「そして」に当たる英語の and は使用範囲が広く、学習者の使いすぎによる間違いが多い。石黒（2000）は「そして」を初級で導入するのには慎重な考えを示している。一方、「しかし」自体は、使い誤ることは少ないと思われるが、「しかし」が累加の「も」と共起する場合には注意を要する。次も上級非母語話者の作文の例である。

(33) 確かに、内開きドアが外開きドアと比べれば、比較的に密閉性がかなり低く、地震が多い日本にはやはり外開きドアのほうが安全だと考えられる。
しかし、こういった外開きドアには二つの欠点があると那須武秀が主張した。それはまず、（略）

(34) しかし、時代が変わりつつであることを無視できない。

例(33)、(34)では、「しかし」の後の文に「も」が来ることは自然である。上級レベルの非母語話者学習者 33 名に、次の選択肢問題を課した。

(35) 子どものけいこごととして、最近は、スイミング、ピアノ、英会話などが人気があります。①｛しかし・そして｝昔ながらの習字やそろばんも根強い人気があるということです。習字は、落ち着きが得られる、②｛また・そして｝そろばんは、数字に強くなり、③｛その上・さらに｝集中力がつけられるからということからのようです。

①の選択の結果は、「しかし」が 7 名、「そして」が 26 名と、「そして」を選択する者が「しかし」を選択する者を大きく上回った。この例の難しさは、「人気がある」という述語が前件と後件で同一で、述語が対比関係になく、しかも後件に「も」が使われている点にあると考えられる。こうした「も」で受ける「しかし」の用法は、ひとつのことがらにある側面があることを指摘し、それと同時にそれだけではなく、前件とは別の面もあることを述べる構文である。こうした構文は、これとして説明する必要がある。この用法はさらに、後件の「も」によって主張をやわらげようとする、次のような用法につながるものと考えられる。

(36) ＜経済コラムの最後の部分＞
経済学はこれまで金銭的な活動や市場の機能を重視する形で議論を構築し、人々を物質的に豊かにすることを重視してきた。高度成長期には会社などの生産共同体を重視する価値観があり、物質的な豊かさに注目する経済学の議論は有用性が高かっ

たと思われる。しかし、現在は精神面の豊かさ、自然災害に対する危機管理、新しい協働体意識の構築も｛も・が｝主要な課題となっている。（日経）

６　まとめ

以上、「そして」と「しかし」について、言いかえられる時、言いかえられない時があることから、それぞれの場合を考え、その働きをみた。発話のプロセスに沿って考えると、「そして」は、後に続くことがらが最後であることを示し、「しかし」は、後件にそれまでの流れとは異なることがらが来る先触れと言える。「そして」「しかし」を順接、逆接と分けるのが一般的だが、その違いは実は大きくはない。「そして」「しかし」それぞれに、意味、働きの近い接続詞群があり、それらの使い分けは、別途みていく必要がある。

用例出典

経済：木暮太一（2009）『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社

季節：山本周五郎（1962）『季節のない街』新潮社

この国：カレル・ウオルフレン、木下英治（2012）『この国はまだ大丈夫か』青志社

資本：中谷巌（2012）『資本主義以後の世界』徳間書店

接続：横林宙世・下村彰子（1988）『外国人のための日本語　例文・問題シリーズ　接続の表現』荒竹出版

点と線：松本清張（1971）『点と線』新潮社

Points and Lines: Makiko Yamamoto/ Paul C. Blum (1986) *Points and Lines* Kodansha international

日経：日本経済新聞 2012 年 3 月 2 日朝刊「経済教室」

表現：中村明・野村雅昭他編（2005）『表現と文体』明治書院

ハングル：野間秀樹（2010）『ハングルの誕生』平凡社

東アジア：一橋大学東アジア政策研究プロジェクト（2012）『東アジアの未来』東洋経済新報社

文型：グループ・ジャマシイ編著（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版

分身：東野圭吾（1996）『分身』集英社

マルクス：木暮太一（2007）『マルクスる？』マトマ商事

参考文献

石黒圭（2000）「「そして」を初級で導入すべきか」『言語文化』37 巻　一橋大学語学研究室

石黒圭（2008）『文章は接続詞で決まる』光文社

石黒圭・阿保きみ枝・佐川祥予・中村紗弥子・劉洋（2009）「接続表現のジャンル別出現頻度について」　『一橋大学留学生センター紀要』12　一橋大学留学生センター

岩澤治美（1985）「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』56 号

W.O.クワイン著、杖下隆英訳（1972）『現代論理入門』大修館書店
佐竹久仁子（1986）「「逆接」の接続詞の意味と用法」宮地裕編『論集　日本語研究（一）現代編』明治書院
日本語記述文法研究会（2009）『現代日本語文法⑦』くろしお出版
馬場俊臣（1999）「接続表現の省略可能性について」『札幌国語研究』4　北海道教育大学
森山卓郎（2006）「「添加」「累加」の接続詞の機能―「そして」「それから」などをめぐって―」益岡・野田・森山編『日本語文法の新地平 3』くろしお出版
渡辺学（1995）「ケレドモ類とシカシ類」宮島・仁田編『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』くろしお出版

（さえぐさ　れいこ　法学研究科教授）

「国境をまたぐ能力」の育成を目的とした短期海外研修の学習成果：オーストラリア研修の事例より

Learning outcome assessment of a short-term study abroad program focusing on the development of intercultural competence: Qualitative case-study of Australian program

秋庭　裕子

要旨

本稿では、短期海外研修（オーストラリア）に参加した学生が、研修の目的である「国境をまたぐ能力」を習得しているのかを検証するため、「国境をまたぐ能力」のキーワードを過去の資料から抽出し、Deardorff（2006）が提唱する異文化間適応能力モデルを使って、学生のリフレクション・ペーパーを中心に分析した。その結果、課外活動や現地での聞き取り調査、ホームステイなど多文化社会を体感できる研修内容によって、学生たちはこの能力を確実に学んでおり、研修の目的に沿った学習成果が出ていることが分かった。また、学生がこれをきっかけに長期留学の準備をするには、研修終了後も長期にわたり留学相談のサポートをする必要性も浮かび上がった。

キーワード：短期海外研修、リフレクション・ペーパー、学習成果、仕掛けづくり

１．はじめに

日本人学生の間で、海外留学を志す学生が減っていると言われて久しい。IIE（2011）によると、アメリカへの日本人留学生数は 21,290 人で、前年比 14.3%と減少傾向にある。日本政府としても、「留学生交流支援制度（ショートステイ、ショートビジット）」を通じて、3 か月未満の研修に対しても奨学金を給付し、日本人学生の短期海外派遣を支援する動きを見せている。

短期海外研修[1]は、期間こそ短いものの、長期の海外留学と比べた費用面での負担の少なさ、学位プログラムの妨げにならない、卒業が遅れることもないという理由から、今後も多様な学生のニーズに応じて増え、参加学生数も増えていることが指摘されている（Chieffo & Griffiths、2009：Deardorff、2009：Donnelly-Smith、2009）。日本学生支援機構による調査（2011）によると、学生交流協定等に基づいて派遣された日本人学生数は、短期を 3 か月未満とした場合、全体の約 56.5%を占めている。

しかしながら、短期海外研修に関する研究そのものは、その現象自体が比較的新しいため、限られている（Deardorff、2009：Donnelly-Smith、2009：Jackson、2006）。そん

[1] 短期海外研修の期間については、1 週間から 3 か月程度まで多岐にわたり、それを実施する機関によって異なっているため、公式な定義はない（Donnelly-Smith、2009：工藤、2011）。

ななか、海外留学の研究では、近年、海外留学の学習効果の評価が注目されている。例えば、グローバル人材の育成と日本でしばし使われるように、アメリカにおける海外留学の学習成果として、異文化適応能力（intercultural competence）、グローバルな視点と態度の習得（global engagement, global competence）といった用語が頻繁に用いられており、いかにこれらを測定するのかが最近では議論されている。しかし、その用語の定義が曖昧であるため、プログラムの目的に合った形でこれらの用語を再定義し、その教育的成果を測定していくのが課題となっている（Deardorff、2009）。

短期海外研修の学習効果に関しては、長期留学に比べてあまり効果がないのではないかという考えから、あまり取り上げられてこなかった（Brooking、2010：Chieffo & Griffiths、2004）。そんななか、Paige 他（2009）は、海外留学の期間とグローバルな視点の習得の相関については、あまり差がないという研究結果を発表した。別の研究では、海外留学において成功の鍵となるのは、長さではなく、参加学生の学習成果につながる研修の参加目的の設定と事前・事後のオリエンテーションの仕掛けづくりであるとも指摘されている（Chieffo & Griffiths、2009）。これについては、工藤（2011）も、短期海外研修における重要な要素のひとつに、学生の経験自体ではなく、自分と他者を意識した中で経験を分析し、行動する力を伸ばす「仕掛けづくり」をプログラム担当者が担う必要性を提言している。

そこで、本稿では、短期海外研修前後のオリエンテーション、現地での異文化体験型の研修という「仕掛けづくり」をすることで、どれだけ学生の教育的効果が出たのかを学生のリフレクション・ペーパーを参考にケース・スタディとして取り上げる。短期海外研修については、教育活動としての研修の効果に焦点を絞った事例研究は多々あるが（工藤、2011）、本稿では、大学のプログラムとして位置づけられている短期海外研修の学習効果を、研修の目的と照らし合わせながら、学生のリフレクション・ペーパーから考察し、学生にとって有益な短期海外研修の構築・意義について考えてみたい。

２．事例研究対象となる短期海外研修の特徴

本稿では、2010 年度春季（2011 年 2 月 27 日～3 月 26 日）にオーストラリアの大学付属の語学センターにおいて実施された短期海外研修に参加した学生を対象にしている。本研修は、2010 年度で 6 回目の実施となり、現地スタッフの協力のもと、事前に現地プログラムの内容について話し合いを行っている。本研修は、春休み期間の 4 週間、オーストラリアで多文化社会を肌で感じながら、「国境をまたぐ能力の育成」を目的とし、日本の他大学の学生とのコンソーシアム・プログラムでありながら、ホームステイ、現地の学校訪問等を通じて多文化社会を肌で感じられるよう研修内容が組まれている。

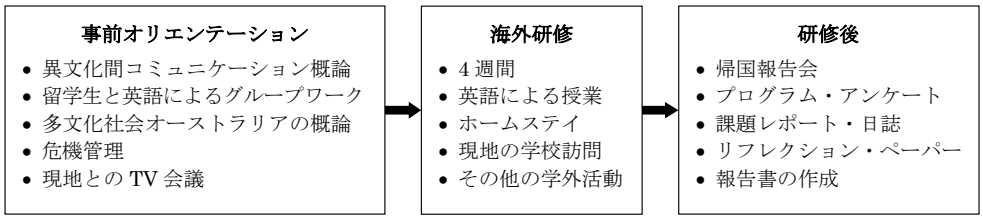
現地での研修を前に、研修参加者にはオリエンテーションが 1 学期間を通じて組まれている。研修の目的である「国境をまたぐ能力」を体得するために、2010 年度の渡航前オリ

エンテーションでは、異文化間コミュニケーション、オーストラリアの多文化社会の概論、危機管理といった基礎的な内容から、外国人留学生 4 名（ドイツ、フランス、ロシア、パキスタン）を招いて英語による小グループによるディスカッションを実施し、現地関係者との英語によるテレビ会議も盛り込まれ、英語による体験学習を実践する時間も設けた。

帰国してからの流れとしては、帰国後 1 週間以内に帰国報告会を開催し、現地研修内容の評価と振り返りを行っただけではなく、学内の派遣留学制度、その他の短期海外研修、チューター制度、寮のレジデンシャル・アシスタントなど学内での国際交流活動を紹介し、学生が海外での短期滞在経験を今後も活用できるように情報を提供した。

この帰国報告会以外に、帰国後 4 週間以内に各自の課題レポートと日誌、リフレクション・ペーパーの 3 種類を提出し、課題レポートと日誌をもとに研修報告書を作成した。課題レポートは現地での生活のなかから各自テーマを選び、それに沿って現地で発表し提出したものを、課題レポートとして提出した。

図 1　短期海外研修の流れ



３．調査方法

3.1　調査対象者

2010 年度春季短期海外研修（オーストラリア）に参加した学生 18 名（男性 9 名、女性 9 名）を対象とし（表 1 参照）、海外研修参加前後に実施された自己評価シート、リフレクション・ペーパーより、学生の学びの過程の分析を試みた。リフレクション・ペーパーは、①研修を通じて学んだことのなかで特に印象に残ったこと・出来事を具体的に書き、またどうして印象に残ったか、②研修中の経験を振り返り、今後にどう生かしていきたいか、の 2 点を中心に A4・2 枚に記述し、電子メールで担当教員に提出をした。また、本研修が学生の長期留学への意思決定に影響を与えるか否かを検証するために、研修直前・直後に自己評価アンケートを実施した。

表 1　短期海外研修参加者 18 名の属性

属性	性　別		学　年				海外渡航歴	
	男	女	1	2	3	4	有	無
人数	9 名	9 名	13 名	4 名	―	1 名	15 名	3 名